

静岡

富士市は、静岡県東部に位置し、北に富士山を仰ぎ、南に駿河湾をひかえる人口約26万人のまちである。また、同市は、明治初期から、富士山の豊富な地下水の恵みを受けた良質な紙の生産地でもある。1960年代の高度経済成長期には、整備されたインフラと立地利便性から、全国有数の「紙のまち」として発展を遂げ、61年には江戸時代から続く吉原湊が「田子の浦港」として開港、輸送機械や化学工業などの大規模工場も進出、以後、「工業都市・富士市」を支え続けてきた。

こうした工業中心の発展の歴史を持つ同市にとって、「工場のある風景」は昔から生活に根付いたあたりまえの風景であり、中でも、工場の夜間操業を照らす光は、昼夜を問わず稼動し続ける工場の息吹や産業の原動力を象徴し、また、公害を乗り越えた歴史や発展を見守り続けてきた「灯火」ともいえる。

近年、工場夜景を観賞する観光ツアーの人气が高まり、「工場萌え」が全国的なブームとなりつつある。全国有数の巨大コンビナートや工場群を有する室蘭市、川崎市、四日市市、北九州市、周南市、尼崎市は、いち早く工場夜景を観光資源として活用し

ており、11年から「全国工場夜景サミット」を開催、夜景ナイトクルーズや工場夜景ナビゲーター（工場夜景ガイド）など、魅力を高めるための共同研究に取り組んでいる。

このサミットに同市もオブザーバーとして参加、工場夜景プロモーションの研究を重ねてきた。同市の工場夜景は、サミット参加都市と比較すると、工場プラントが点在、全体のスケールや光量がやや小さいが、小規模な分だけより間近で楽しめ、人々の生活や自然と共存した、他都市にはない個性を持っている。また、世界遺産富士山を背景に、「富士山の見える工場夜景都市」としてオンリーワンの魅力を発信できる。加えて、昨年には市内を走る「岳南電車」が鉄道として全国初の「日本夜景遺産（施設型）」に認定され、映画などのロケ地としても注目されている。同社では、車窓から見える富士山と工場夜景の魅力も発信している。

現在、同市の工場夜景に関する取組は、富士商工会議所青年部や富士工場夜景倶楽部などの民間団体が中心となり、モニターツアーや工場夜景写真撮影会などを企画・開催している。

今後、同市が工場夜景という新しい魅力を掘り起し、まちの活性化事業を進めていくためには、地元企業や関係者などの協力、そして何よりも「工場夜景プロモーション」に対する市民の関心を高めることが重要である。郷土発展の象徴である工場夜景は、まちの活性化や観光プロモーションにおける原石ともいえよう。

製紙業を主要産業として発展を遂げてきた同市だが、近年、大手企業の海外進出や事業縮小などにより都市活力は低下しつつあり、工業や運輸を中心とした分野に多くを依存する従来の都市経営では、将来的にも厳しい状況も予想される。今、同市は持続可能な都市であり続けるための新しい魅力が求められている。

平成27年度、同市は7番目の「全国工場夜景サミット」への正式参加都市となる。市民、企業、関係団体、行政の連携のもと、工場夜景プロモーションを通じたまちの活性化を本格的に始動しようとしている。

工場夜景プロモーションで地域活性化



田子の浦港より望む「きらめく産業のまち」（提供：富士工場夜景倶楽部）